

第4章 プログラム及び教材を活用した実践事例

ここでは、本プログラム及び教材を盲学校小学部国語の授業で活用した事例を紹介する。点字教科書を用いて学習している児童1名の5年から6年にかけての指導のうち、4単元を事例としてあげる。指導を通して漢字力の習得がどのようになされたのか、プログラムや教材の有効性、また今後の課題等も含めて後段で考察する。（この章は研究協力者の熊本県立盲学校の森崎洋子教諭、熊本県教育委員会の吉田道広指導主事が主に担当した。）

I. 事例の概要

1. 対象児童について

対象児童が小学部5年（平成17年度）～6年（平成18年度）在籍時に指導を実施。

普段は点字を使用しているが、墨字（普通文字）に対する関心も高い。パソコンを使ってひらがなやカタカナ、漢字を交えた文を書くことができ、表面作図器（レーズライター）を使って絵や文字を書く活動や触察にも興味を持ち、意欲的に取り組む様子が見られる。

<指導開始時の実態>

(1) カタカナ実態把握テスト（平成17年9月）

カタカナ46文字の字形の理解について、実態把握を実施。

方法は、点線文字（点図で作成した5cm程度の文字。以下同様。）で表したカタカナを児童が触察した後に、その文字が表す音を答えさせる。

結果は、46文字中、36文字を答えることができた。

(2) 基本的漢字実態把握テスト（平成17年9月）

「点字使用者の漢字学習プログラム」の第2段階及び第3段階において基本的漢字として取り上げられた漢字184字について実施。

方法は、点線文字で表された漢字を児童が触察した後に、その漢字の読みを答えさせる。

結果は以下の通り。

- ・第2段階 44字／113字
- ・第3段階 10字／71字
- ・合計 54字／184字

(3) 読書力診断検査（平成17年9月22日実施）

「教研式全国標準読書力診断検査 小学校高学年用（5，6年）」（社団法人日本図書文化協会制作，株式会社図書文化社発行）を、点訳して実施。

本検査は、第1部「読字力」、第2部「語い力」、第3部「文法力」、第4部「読解・鑑賞力」の4つの下位テストに分かれており、各部とも5段階評価で3が標準である。第1部は漢字の読みに関する下位テストであるため、第2部～第4部を実施した。検査は、通常の1.5倍の時間で行った。

結果は以下の通りである。

- 第2部 語い力 評価段階4
- 第3部 文法力 評価段階3
- 第4部 読解・鑑賞力 評価段階4
- 第1部をのぞく総合評価3

2. 漢字指導について

(1) 指導期間

平成17年9月～平成18年10月

(2) 指導を行った単元

平成17年度（小学部5年）

- ① カンジ博士の暗号解読
- ② 漢字の広場 4年生で習った漢字③
- ③ 和語・漢語・外来語
- ④ 漢字の広場 4年生で習った漢字④
- ⑤ 言葉の組み立て
- ⑥ 漢字の広場 4年生で習った漢字⑤
- ⑦ 漢字の読み方と使い方
- ⑧ 漢字の広場 4年生で習った漢字⑥
- ⑨ 同じ読み方の熟語

平成18年度（小学部6年）

- ① 漢字の形と音・意味
- ② 漢字の広場 5年生で習った漢字①
- ③ 漢字の広場 5年生で習った漢字②
- ④ 漢字の広場 5年生で習った漢字③
- ⑤ 同じ訓をもつ漢字
- ⑥ 漢字の広場 5年生で習った漢字④

(3) 指導内容及び指導方法

漢字の指導は主に国語の言語教材において行った。「漢字の広場」は、絵から想像を広げ、これまでに習った漢字を使って文や文章を作っていく題材である。ここでは、教科書に取り上げられている漢字（言葉）を使って文章作りを行った後、取り上げられている漢字の中で、特に基本漢字及び基本漢字の単語家族である漢字を中心に指導を行うようにした。「漢字の広場」以外の単元は、同音異義語や複数の読み等の漢字の知識を深め、言葉に関する興味関心を高める題材であり、ここでは、単元の内容に添って言葉の学習を行いながら、「漢字の広場」と同様に、基本漢字及び基本漢字の単語家族である漢字を中心に指導を行うようにした。

これらの漢字の学習では、読み（音読み、訓読み）、字形、部首、成り立ち、書き順、どのような熟語に使われるかについて学習をした。教材は、主に漢字学習プログラム教材とレーザーライターを使用し、漢字が親字である場合は、その単語家族についても指導を行った。

(4) 指導にあたっての配慮点、留意点など

- ・児童が触察で字形を確認した後、漢字の成り立ちの説明を行うようにした。へんやつくり、漢字のもつ意味や読み、どんな熟語に使われるかなどの説明は、漢字の成り立ちに関連づけて行うようにした。その際、教師が一方的に説明するのではなく、児童とのやりとりの中で、児童自身が気づいたり考えたりできるような言葉かけを行うようにした。
- ・特に基本漢字については、点線文字を触って字形を確認するだけでなく、レーザーライターを使って実際に書いて確認するようにした。
- ・児童が楽しみながら主体的に学習に取り組むことができるように、ゲームやクイズなどの活動ができるだけ多く取り入れるようにした。

Ⅱ. 指導事例

<事例1> 平成17年度2学期

1. 単元名 漢字の広場 4年生で習った漢字③

2. 指導期間 平成17年10月18日～24日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元は、第4学年に配当された漢字を含む言葉（熟語）と絵が提示されており、それらを手がかりにして、4年生までに配当された漢字を使いながら文章を書き、物語を創作していくものである。点字の教科書では、絵はなく言葉のみ提示されており、提示された言葉は、漢字の部分がかっこで囲まれている。

5. 単元の目標

- ・提示された言葉と絵を手がかりに、物語を想像しながら創作することができる。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1／4時

- ・立体コピーで作成した図と教科書に提示された言葉を参考にして物語を作る。
- ・作った物語を発表する（録音）。
- ・自分の発表（録音）を聞き、表現の仕方や言葉の使い方などを推敲する。
- ・他の作品を聞いたり読んだりして、様々な構成や表現の方法を知る。

(2) 2～4／4時

- ・教科書に提示された言葉（熟語）の意味を確認する。

○提示された漢字について知る（漢字の意味や読み、形、へんやつくり、成り立ち、どのような熟語に使われているかなど）。

○学習した漢字の親字、同じ親字を持つ他の漢字（単語家族）について知る。

7. 使用教材

(1) 立体コピーで作成した図

教科書の挿絵を、児童が触って分かりやすいように加工したもの。それぞれの絵は別々のカードにし、裏にマグネットつけてホワイトボードに取り外しができるようにした。



(2) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(3) 教師が作成した物語

(4) レーズライター

(5) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(6) ICレコーダー

児童の発表を録音し、児童自身が聴いて確認するために使用。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①教科書を読み、提示された言葉と絵を参考にしながら、場面をイメージする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に立体コピーで作成した図を触りながら、どのような場面や状況なのか説明を行った。動作語などについては、児童と一緒に実際に動作を交えながら説明を行うようにした。児童も、絵を触りながら「人がこうしているね」と自分で動作するなど、自分なりに場面をイメージしたり、「これは何？」などと教師に質問し、楽しんで取り組む様子が見られた。 ・児童が言葉の意味を理解しているかどうか、その都度確認するようにした。児童は、ことばの意味をよく考えて自分の言葉で説明することができたが、分からない言葉については、教師が正しい意味を伝え、ノートに書くように指導した。

<p>②場面ごとに提示された言葉を使って短文を書き、物語のあらすじを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身で考え、物語を作りやすくするため、場面ごとに絵を並び替えたり、また、短文を一つ書き終えるごとに絵をボードからはずしていったりするなど、場面が抜けることがないように工夫して取り組む様子が見られた。 ・児童が漢字の意味を確実に捉えることができるよう、他の読み方や使い方についても伝えるようにした。
<p>③物語を発表し、自分の発表を聞いて、表現や言葉の使い方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ＩＣレコーダーで録音した自分の発表を聞きながら、文章を確認したり自ら言葉の使い方を振り返ったりすることができた。
<p>④提示された漢字の意味や読み、形、へんとつくり、成り立ち、どのような熟語に使われているかなどを知るとともに、学習した漢字の親字、同じ親字を持つ他の漢字について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書に提示された言葉の漢字を知っているか確認 ・特に、提示された漢字が既習の漢字であるときは、漢字の形、訓読み、どんな熟語に使われたかなど、覚えていることをたずねた。児童が分からない場合は、まず、熟語の意味をたずね、熟語から漢字の意味を考えるように促した。 ○ 漢字の字形 ・児童が知っている場合、レーザーライターで書くようにし、知らない場合は点線文字で確認してからレーザーライターで書くようにした。児童は、点線文字の漢字を触り、形が似ていて知っている漢字を言ったり、漢字を構成している部分を言ったりしながら書く様子が見られた。児童が書いたり触ったりして確認した後に、児童が似ているといった漢字との違いを伝えるようにした。 C : 「児童会の『カイ』は『あう』？会社のカイ？」 T : 「そうそう、すごい！漢字、書ける？」 C : 「合」という字を書く。 T : 「おいしい！」 C : 「あれ？あつ、思い出した」と言って、「(会の二の部分が一になっている字)」を書く。 T : 『会』の点線文字を提示しながら「ここが一じゃなくて二だね」 C : 点線文字で字形と読みを確認する T : 『会』の成り立ちを説明する T : 「会は、『人に会う』ときの『あう』で、合は、『意見が合う』等に使うときの『あう』」 ・レーザーライターで書く際は、自ら書き順や線の交差の仕方などに気をつけながら書き、その後、書いた字を触って確認の様子が見られた。 ○ 漢字の成り立ち ・漢字の字形を確認しながら、成り立ちについて説明するようにした。 ・成り立ちの図があるときは、図を丁寧に触り、楽しみながら意味や読みを推測しようとしていた。 ○ 漢字の意味や読み、使われている熟語 ・字形の確認や成り立ちとともに、漢字のもつ意味や読みを伝えるようにし、また、どのような熟語で使われるかを説明するようにした。学習を

繰り返すうちに、児童自身も、熟語の意味から、構成している漢字を考えようとする様子が見られるようになった。

○ 単語家族や似た漢字

- ・点線文字で字形を確認する際、単語家族を自分から触って確認したり、読みや教師の説明から自分で漢字の意味を考え、どんな熟語に使われるか考える様子が見られた。

C : 『会』を確認した後、『絵』を触る

C : 「右に『会』がついているね」

T : 単語家族について説明

C : 「絵画のカイだ。そういえば、パソコンで変換のとき言ってる。」

T : 合の点線文字を提示し、合の漢字の意味を説明する。

C : (読みを触って) 「ゴウって書いてある」

T : 「合同とか合計とかのゴウだよ」

C : 「あっ、『合わせる』って意味だよね」

- ・熟語を構成している漢字を考えると、訓読みを意識するような言葉かけを行うようにした。

T : 『求』『球』『救』の3つの漢字(点線文字)を提示する

C : 「全部キュウって書いてある」

T : 「この中で、救助のキュウはどれでしょう？」

C : 『救』を選ぶ

T : 「どうして？」

C : (訓読みを触りながら) 「救助って助けたりすることでしょ。この字は『すくう』って読みもあるから」

○ へんやつくり

- ・提示された言葉を読んで、自分が知っている同じ読みの漢字を言う様子がよく見られた(副と福など)。

- ・「副」の学習の際、単語家族である「福」の学習を行った。『りっとう』『しめすへん』など、部首のもつ意味についても説明を行うようにした。

C : 「副会長のフクって、節分の『福は内』のフク？」

T : それはこっちの方(点線文字「福」を示す)

T : 「副委員長や副社長、薬の副作用とか」

C : 「あっ、そのフクなんだ。(副の点線文字を触りながら) 訓読みはないね」

T : 「副の左の部分、親になる字は、とっくりを表しているんだよ。とっくりって知ってる？」

C : 「お酒飲むときに使うこんな(手で形を作る)ちっちゃいやつ」

T : 副の成り立ちを説明する

C : 「じゃあ、こっち(福)は？」

T : 「この字の部首は何か知ってる？」

C : 点線文字を触りながら「カタカナのネだけど・・・。何だっけ。」

T : 「これは、しめすへん」しめすへんのもつ意味を伝える。

<事例2> 平成17年度2学期

1. 単元名 漢字の読み方と使い方

2. 指導期間 平成17年12月13日～15日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元は、ゲームを通して、「間」（人間、時間）のように二つ以上音がある漢字の存在を知り、その使い分けを習得できるようにするとともに、「今日（きょう）」のように特別な読み方をする言葉があることを知る。

5. 単元の目標

- ・複数の音をもつ漢字の読み方や特別な読み方をする言葉について知り、言葉への関心を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1 / 4時

- ・同じ漢字であっても熟語によって読み方がちがうことがあるということを知る。
- ・問題の解き方を知り、教科書の問題（一つの漢字にいろいろな音）に取り組む。
- 漢字の確認をする。

(2) 2 / 4時

- ・教科書の問題（一つの漢字にいろいろな音）に取り組む。
- ・特別な読み方をする言葉について知る。
- 漢字の確認をする。

(3) 3～4 / 4時

- ・教科書の問題（特別な読み方をする言葉）に取り組む。
- 漢字の確認、単語家族の確認をする。
- 練習問題（同じ漢字が異なる読み方で複数回使われている文章の中で、どれが同じ漢字であるか考えるもの）に取り組む。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 点線文字カード（漢字カード、矢印カード）

(3) レーズライター

(4) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童

に伝えるために使用。

(5) 練習問題（４、５時間目に復習のために使ったもの）

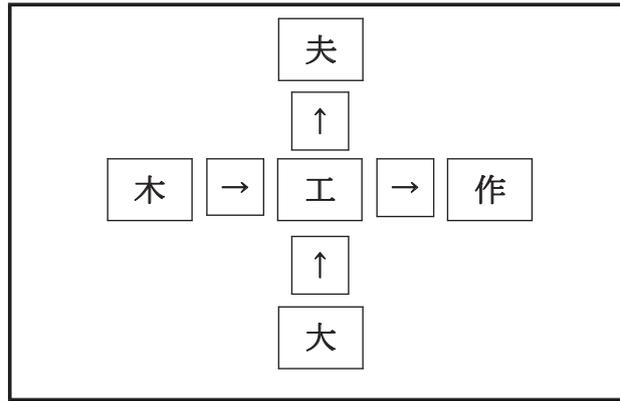
- ① 日程がちょうど合ったので、東町小学校と合同で合宿をした。
- ② 熊本の地下水の量と下水の仕組みを調べた。
- ③ ゲートボールは老人に人気のあるスポーツだ。
- ④ 氏名の欄に名字と名前をはっきり書く。
- ⑤ 練習問題の後半は、午後に解きました。
- ⑥ 父はつりの名人として、全国でも名高い。
- ⑦ 気楽に楽器を演奏する。
- ⑧ 今日は一月一日。元気に元旦を迎えよう。
- ⑨ 旅行の申し込みをするために行列にならんだ。
- ⑩ 自動車工場では、さまざまな工夫がされています。
- ⑪ その地方独特の言葉を方言と言います。
- ⑫ 明朝、明るくなる前に出発しよう。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①同じ漢字であっても熟語によって読み方がちがうことがあるということを知る。</p> <p>・教科書の例文を読み、人間の「ゲン」と時間の「カン」は同じ漢字であることを知る。</p> <p>・教材を使って漢字の字形、読み、成り立ちやどんな熟語に使われるか、単語家族など確認する。</p>	<p>・教科書の例文『人間にとって、時間は大切な財産である。』を読んで、一つの漢字に複数の読み方があることを知り、自分の知っている知識と結びつけて考えようとする様子が見られた。</p> <p>C：「時間のカンって、『あいだ』でしょ？人間の『ゲン』も『あいだ』なんだ。これは、たしか『クダ』とも読めたよね」</p> <p>T：『間（あいだ）』っていう字は、カンとゲンの2つの音読みを持っているよ。」といい点線文字『間』を提示。</p> <p>C：触りながら「門構えに日だね」</p> <p>T：『管』を提示して、「これが『クダ』。これも音読みは『カン』っていうよ。よく覚えていたね。でも、この『カン』は、水道管、試験管とかのカン。『クダ』って分かる？」</p> <p>C：「あー、そっか」</p> <p>T：「時間の『ジ』は分かる？」</p> <p>C：「書けるかも」と言って『分』という字を書く。</p> <p>T：「この字には、『ジ』の他に読み方ある？」</p> <p>C：「何分の『フン』」</p> <p>T：「時間の『ジ』と何分の『フン』が同じ漢字になるかな？」</p> <p>C：「そうか、おかしいね」</p> <p>T：「時間の『ジ』って、どんな部首がつくと思う？」</p> <p>C：「時間の『ジ』って、何時の『ジ』だよ。う～ん。」</p> <p>T：「昔の人は時計がなかったときは、どうやって時間を知ったのかな」</p> <p>C：「太陽？あ、日だ」と言い、ひへんを書く。</p> <p>C：教師と一緒に、日の隣につくりの（寺）を書く。</p> <p>T：「こっち（寺）は、『てら』だよ。お寺は〇〇寺（ジ）って言うでしょ。寺は『ジ』って読むんだよね。これが親字で、この寺に日とか他</p>

	<p>の部首がついても、『ジ』って読む場合が多いよ。」</p> <p>T：寺の字の成り立ちを説明し、単語家族について、どんな字があるか、それぞれの読みや成り立ち、どんな熟語に使われるかを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から単語家族の漢字を触って質問するなど積極的に取り組む様子が見られた。
<p>②例を通して問題の解き方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に例題として使われている漢字のカード『本』『名』『案』『人』『大』を提示し、1枚ずつ漢字を確認した。確認し終わったあと矢印カード(「→」)を提示して方法を説明すると、方法はすぐに理解し、自分から並べ始めた。 カードには音読みと訓読みをつけていたので、それを手がかりにしなから、教師と一緒に5枚のカードの中から熟語を1組ずつ作り、矢印の向きなどを考えながら作ることができた。 <div data-bbox="584 730 1208 1128" data-label="Diagram"> </div>
<p>③教科書の問題(複数の音をもつ漢字について)に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字カードを1枚ずつ触り、字形と読みを確認する。 1組ずつ組み合わせ、熟語を作っていく。 漢字の一つ一つ 	<p>○問題1『作、工、大、夫、木』</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めて教師の支援なしで行った。かなり苦勞していたので、まず何を真ん中にもってくるか、共通して使うものは何かを考えるように伝えたと、2字の熟語を作り矢印をつけていった。『工』を真ん中におき、「工作」、「大工」は比較的すぐにできたが、残りの二つ(「工夫」「木工」)が難しいようだった。特に『木工』は、2つの漢字の読みがそのまま熟語の読みにつながるわけではないので、時間がかかったが、読み方が分からなくても、漢字1字1字の意味を考えて熟語の意味を考える様子が見られた。 <p>C：「あとは『木』と『工』だけど、どう並べるのかな」</p> <p>T：「この熟語はどんなことを意味しているかな。読み方は分からなくてもいいから、どんな意味があるか考えてみようか」</p> <p>C：「木で何かを作ることかな」</p> <p>T：「うん、そうだね」</p> <p>C：しばらくカードを入れ替えたりしながら考え、「モクコウ・・・？木で作ること・・・。あ、モッコウか！」と自分で気づくことができた。</p>

について、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。
 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。



- ・訓読みがない漢字が多い問題（山、下、校、地、以）は、手がかりがないためかなり難しいようだった。また、『下』のように読みが複数ある場合、一つの読みで考え始めると、他の読みで考えることを忘れてしまって分からなくなってしまうことがあったので、その都度、読みが複数あることを確認するようにした。
- ・はじめは問題を解くのに時間がかかっていたが、慣れてくると比較的スムーズに組み合わせを考えることができるようになり、自分の力で解くことができるようになった。また、構成している漢字の意味から、作った熟語の意味を考えることができるようになった。
- ・漢字の字形を確認し、教師による成り立ちの説明を聞きながら、「図のこの部分が漢字のこの部分になったんだ」等と自分で考える様子が見られた。

④特別な読み方をする言葉について知る。
 ・漢字カードで字形を確認する。
 ・漢字の一つ一つについて、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。
 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。

- 読み方から漢字を考える
- ・明日（あした）の他の言い方を児童にたずね、同じ漢字を書いて『みょうにち』とも読むことを伝えた。
 T：「明日（あした）ってどんな漢字を使うか分かる？」
 C：「分からない。でも、『みょうにち』の『にち』なら分かるよ。」と言って『日』を書いた。
 T：『『みょう』は、『あかるい』っていう字」
 C：「明るい……。分からない。」
 T：「昔、電気がないときは、どうやって明かりをとっていたのかな？」
 C：「太陽と月。もしかして、『日（ひ）』と『月（つき）』？」と気づき、『明』と書いた。
 - ・同様に『今日』についても行った。
- 漢字から読み方を考える
- ・『一日』のカードを触って『『いち』と『ひ』。じゃあ、これは『ついたち』。『いちにち』とも読むんだよね』と気づき、さらに、「二人、大人、二十日」もカードを触って自分で気づいた。
 - ・『昨日』を提示するとすぐに『『昨』の右側は、『作』の右側と同じだから、これは『さく』って読むんだ。じゃあ、これは『さくじつ』？』と自分で考えることができた。また、教師が「さくじつって何のこと？」とたずねると、「きのう。じゃあ『きのう』って読むんだ」と気づくこと

	<p>ができた。</p> <p>○自分で特別な読み方をする言葉を見つける</p> <p>C : 『今日』のカードを触る。</p> <p>T : 「はじめの字は、『いま』っていう漢字だよ」</p> <p>C : 「『いま』と『日(ひ)』、『きょう』だ。」</p> <p>C : 「この『日』が『あさ』になると、『けさ』って読むのかな。『朝』は『あさ』か『ちょう』ってしか読まないから、『今朝』もこの特別な読み方をする言葉かな。」</p>
<p>⑤同じ漢字が複数回使われている文章を読み、どの言葉が同じ漢字であるか考える(単元のまとめ、復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文をノートに書き、どれが同じ漢字か考える。 ・漢字の一つ一つについて、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題(1)は、すぐに『あう』と『ごう』と『がっ』だと気づき、レーザーライターで書くことができた。問題(2)は、少し時間がかかった熟語の意味などから考えることができた。 T : 「下水って何？」 C : 「下を・・・」と言いかけて、「地下と下水だ。下っていう字」と気づき、「下」を書くことができた。 T : 「そうだね。下っていう字は、象形文字・指事文字・形声文字・会意文字のうちどれでしょう」 C : 「指事文字」 ・どの言葉が同じ漢字を使ったものかは比較的早く解くことができた。 ・『前』の形を一緒に確認すると、「ゼンとも読むよね」と言い、「午前中のゴってどんな漢字だっけ」など、自分からたずねる様子が見られた。 ・問題を解きながら、問題文中の漢字とその単語家族についても確認した。(名字のジが『字』であることを確認し、字が「子(し)」の単語家族であることなど) ・単語家族を説明するときは、一つ一つに対して、どのような熟語に使われるか児童に考えてもらうようにした。『晴』の字形、読みを触って「セイ、ハレ」と確認したあと、「晴天の『セイ』だ」と言うなど、漢字の読みを参考にして使われている熟語を自分で考えることができた。

<事例3> 平成17年度3学期

1. 単元名 同じ読み方の熟語

2. 指導期間 平成18年2月13日～15日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元では、漢字には「間」「刊」などのように同じ音をもつものがあること、また、熟語にも、「採集」「最終」などのように同じ音で意味の違うものがあることを知るとともに、漢字の意味やその漢字を使った熟語の意味を考えて同じ音の漢字の使い分けを理解させる。

5. 単元の目標

- ・同じ読み方の熟語（同音異義語）の意味のちがいを理解し、言葉や漢字への興味を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1 / 4 時

- ・教科書の例文の意味を考え、熟語には同じ音読みでも意味が全く違うものがあることを知る。
- ・読み方が同じでも使われている漢字が違うことを知る。

(2) 2～3 / 4 時

- ・練習問題 1（同じ漢字を使ったものを選択肢の中から選ぶ）に取り組む。
- ・意味が分からない言葉でも漢字の訓読みを考えることで熟語の意味の見当をつけることができることを知る。

○漢字を確認し、親字、単語家族について知る。

○パソコン（新点字編集システム 3 の辞書機能）で、熟語の意味を調べ、意味からどんな漢字を使うか考える。

(3) 4 / 4 時

- ・宿題（同じ音の熟語を含む文章を作る）を発表する。

○児童が考えた文章や練習問題 2 の中に使われた漢字について、触ったり書いたりして字形を確認しながら、どんな漢字を使うか学習する。

○部首などから漢字の成り立ちや漢字のもつ意味を考えたり、どんな熟語に使われるか、他にどんな単語家族があるかなどを知る。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 点線文字（漢字カード）

(3) レーズライター

(4) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(5) 練習問題 1（同じ漢字を使ったものを、選択肢の中から選ぶ）

① 今【週】は、風邪で学校を休んだ。

（ア）計算をして円周率を求めました。

（イ）早起きの習慣をつける。

（ウ）お気に入りの週刊誌を買って読んだ。

② 一週【間】前のことを思い出す。

（ア）今日は新聞の休刊日だ。

（イ）ならばときはもう少し間隔をあげなさい。

（ウ）彼は敏感に感じ取った。

- ③【公】園で遊ぶ。
 (ア) おかしを公平に分ける。
 (イ) 交差点を渡る。
 (ウ) 学校の校歌を歌う。
- (6) パソコン及びソフト（新点字編集システム3）
- (7) 練習問題2
- ① カイジョウ：パーティー【会場】は【海上】の船です。【開場】は13：40です。
 ② キチョウ：飛行機の【機長】席に座るとい【貴重】な体験をした。
 ③ シンコウ：【親交】のある国と一緒に秘密のプロジェクトが【進行】している。
 ④ セイカ：【聖火】ランナーとしてこれまでの練習の【成果】を発揮する。
 ⑤ キカン：呼吸【器官】の調子が悪く、長い【期間】入院した。
 ⑥ コウソク：【高速】道路でスピード違反し、警察に【拘束】された。
 ⑦ カセイ：【家政】婦の聖実さんは【火星】で暮らすのが夢だった。
 ⑧ カンソウ：マラソン大会で【完走】したおじいさんがインタビューで【感想】を話した。
 ⑨ キセイ：田舎に【帰省】中に、お腹に【寄生】虫がいるネコが飛び出して交通事故にあつたため、道路が【規制】された。
 ⑩ ショウ：会社の電話を【私用】で【使用】して怒られた。
 ⑪ カイトウ：アンケートに電子レンジの【解凍】がうまくいかないという【回答】があつた。
 ⑫ カイコウ：彼女は【開口】一番、学校の【開校】式での出来事を話した。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①例文の意味を考え、熟語には同じ音読みでも意味が全く違うものがあること、使われている漢字が違うことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、教科書の問題文「一週間前に発売された週刊誌」を提示し、「これ以外に知っているシュウカンってある？」とたずねると、児童は、『『〇〇を習慣にする』ってあるけど、一週間のシュウカンといっしょだよ』と答えた。一週間、週刊誌、習慣は、同じ漢字を使うと思っていたようだ。『週間』、『週刊』、『習慣』の言葉の意味については、自分なりの言葉で説明することができた。その後、正しい意味を説明し、ノートに書くようにした。 ・3つの『シュウカン』について、どういう漢字を使っているかをたずねると、理由も考えて答えた。 T：「一週間の『シュウ』ってどんな字か知ってる？」 C：『『一周回る』のシュウ？』 T：「どうしてそう思うの？」 C：「一週間って、7日間で一回りするから」 T：「じゃあ、『カン』は？」 C：「えっと・・・。何だっけ。」 T：「一週間の意味をよく考えて」 C：「一週間って、日曜日から土曜日までのあいだのことでしょ。あ、『あいだ』だ」 ・漢字学習プログラム教材の『周』を提示し、周にしんにようがついたも

	<p>のが『週』であること、「一週間」、「週刊誌」の『週』であることを伝え、『週』の成り立ちを説明した。また、『間』、『刊』の字形を確認して、成り立ちを説明し、親字、単語家族、どんな熟語に使われるかなどについて説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「習慣」については、教師が「訓読みは『ならう』だよ」と言うと、「学習の『シュウ』？」と、言葉の意味から熟語を考えることができた。
<p>②意味が分からない言葉でも漢字の訓読みを考えることで熟語の意味の見当をつけることができることを知る。</p> <p>親字、単語家族について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『公園』の『公』は、以前学習したことをよく覚えており、レーザーライターを使って支援なしで書くことができた。『園』については、分からなかったので漢字学習プログラム教材で字形を確認しながら成り立ち、親字、単語家族、どんな熟語に使われるかなどについて説明した。 ・教師とのやりとりの中で、字形や部首、読みなどをもとにして熟語や訓読みを自分で考えることができた。 <p>C：『園』を触る。</p> <p>C：「そういえば、パソコンでは『楽園の園』って言っている。こんな字だったんだ。」</p> <p>C：教材で『園』を確認する際、児童自ら進んで『遠』を触る。</p> <p>C：「これもエン？しんによろがついている」</p> <p>T：「それもエンだよ。どんな意味かな、どんな熟語に使われると思う？」</p> <p>C：「しんによろだから……。足で何かすることに関係あるよね」</p> <p>T：「そう。そして、これは同じ単語家族だから……。」</p> <p>C：「エンでしょ。（しばらく考えてから）遠足のエンだ。」</p> <p>T：「正解！じゃあ、訓読みは何か？」</p> <p>C：「難しい」</p> <p>T：「遠足ってどういうところに行くの？」</p> <p>C：「動物園」</p> <p>T：「動物園だけじゃないよね。一般的にどういうところに行く？」</p> <p>C：「遠いところ……。もしかして『とおい』？」</p> <p>T：「正解！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな「コウエン」（公園、公演、後援、講演など）があることを伝え、熟語の意味からどんな漢字を使うか、一緒に考えていった。
<p>③練習問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題（同じ漢字を使ったものを、選択肢の中から選ぶ）に取り組み、問題文中の熟語は、どんな漢字で構成されているか、教材を使いながら確認した。 ・問題3では、はじめは「交差点の『交』」が『公園』と同じ漢字を使うと言っていたが、教師が「公」「交」それぞれの漢字の訓読みをたずねると、訓読み「おおやけ」「まじわる」を答えることができ、その漢字の意味からちがうことに自分で気づくことができた。
<p>④パソコンで、教科書の問題文中の熟語の意味を調べ、意味からどんな漢字を使うか考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文中の熟語で、意味が曖昧なものや分からないものについて、パソコンで意味を調べてノートに書くようにした。 <p>○教科書の問題（『先生』と『先制』）</p> <p>T：『先生のチーム』の『センセイ』はどういう漢字か分かる？」</p> <p>C：「先生の『セン』は、形は分からないけど『サキ』っていう字で、『セ</p>

<p>える。</p>	<p>イ』は『生まれる』っていう字」</p> <p>C : 『先』の字形を教材で確認し、『生』は机の上に指で書いてくれた</p> <p>T : 「よく覚えているね。じゃあ、『先制点』の『センセイ』は？」</p> <p>C : 「分からない」</p> <p>T : 「さっき調べた意味から考えてみよう。どんな意味だった？」</p> <p>C : パソコンで調べた意味を書いたノートを読んで、『先手』って『先にする』ってことだよ。じゃあ、さっきの『先生』の『セン』と同じ字だ。」</p> <p>C : 点線文字『制』の字形を確認する</p> <p>T : 『制』の単語家族を確認し、成り立ちや、読みや使われる熟語について説明した。</p> <p>C : 同じページにあった『成』を触って、「これ、この前さわったことがある。どんな意味だったっけ」</p> <p>T : 『成し遂げる』って意味を持つ漢字だよ</p> <p>C : 「これもセイ。『目標を達成する』のセイだ」</p> <p>T : 「うん。完成、成功、成人式とかのセイだよ」</p> <p>C : 「成人式もこれなんだ。正しいっていう字かと思ってた。」</p> <p>○教科書の問題2（最終と採集）、問題3（先頭と銭湯）についても、教師とのやりとりの中で児童が自分で考えて答えるように支援した。はじめての漢字は、点線文字で字形を確認し、親字、読み、成り立ち、どんな熟語に使われるかなどを説明した。『採』の学習の際、親字を触らせて、「この字（親字）にくさかんむりがついたら、何の『サイ』になるかな？」とたずねると、「野菜の『菜』と答えるなど、へんのもつ意味と音読みとから考えて答えることができた。</p>
<p>⑤同じ音の熟語を複数含む文章を作って発表し、提示された練習問題2の問題文を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題（同じ音の熟語を複数含む文章を考える）を発表する。文章の発表をしながら、どのような意味の言葉か、どのような漢字を使うかを自分なりの言葉で説明してくれた。 <p>[児童が考えた文章]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 広い大きな公園で大きな講演会が行われた。 ② 地震の避難訓練でふざけて怒られたので、自分自身後悔している。 ③ 校庭と学校の前にある木は高低の差が10mある。 ④ 高給をもらった人が高級なレストランで高級な食べ物を食べた。 ⑤ 開店したお店の前で風車が回転している。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題2の文章と一緒に読んで、言葉の意味やどのような漢字を使うかなどを確認した。
<p>⑥児童が考えた文章と練習問題の文章に出てきた漢字について、どのような漢字か考えるとともに、字形や意味、どんな熟語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えた文章に使われている熟語について、パソコンを使って意味を調べどのような漢字を使うか確認した。 ・複雑な字形の漢字の場合、字形を覚えることにはこだわらず一緒に書くようにしたが、その際、漢字の持つ意味を考えられるように部首やどんな熟語に使われるかなどは児童にたずねるようにした。 <p>T : 「講演会の講も演も難しい漢字だよ。講演ってどんな意味？」</p> <p>C : 「何か話すっていうこと」</p>

に使われるか、ほかにどんな単語家族があるかなどを知る。

T : 「そうだね。じゃあ、講の部首はなんだと思う？」

C : 「話すことに関係ある・・・。口？」

T : 「話すことだけじゃなくて書くこととか、言葉に関係するよ。」

C : 「ごんべんだ」

C : レーズライターにごんべんを書き、つくりは教師と一緒に書いた

T : 『講』の部首をさんずいへんやきへんに変えたら、『溝』や『構』になること、『溝』や『構』の訓読みや熟語を説明した。

- 出てきた漢字の親字や単語家族についてもその都度説明を行った。
- 自分が知っている漢字が出ると積極的に書こうとする様子が見られた。

T : 「自分自身の『自』って分かる？ (字形でも訓読みでも)」

C : 「あ、知ってる。書けるよ。」と言って『且』という字を書く

T : 「あー、おいしい。似ているけど、これは、『かつ』という字だね。『～も』っていう意味の字だよ。」

C : 「あれ？じゃあ、こうかな」と言って『自』を書く

T : 「そう、その字。すごい！正解。じゃあ、『シン』は分かるかな」

C : 「えっと・・・」

T : 「形は分からなくても、どういう意味の漢字か分かるかな」

C : 「こころ？こころって『シン』って音読みだったよね」

T : 「あー、そうね。確かに心は『シン』っていう読み方があるけど、この場合は心じゃないよ」

T : 「人間は心と何があるの？心と何があって『自分自身』になるのかな」

C : しばらく考えて「体」

T : 「そうだよね」

C : 『身』を教師と一緒に書く

T : 「この字(身)と、体育の体、『からだ』を合わせて身体。身体って体のこと。この『身』は訓読みが『み』で、これも体のこと。自分の体のことを『わが身』とか言うでしょ。『心身ともに健康』っていうよね。心の『シン』に、この身の『シン』で、『シンシン』だよ。心も体も健康っていうことだよ」

T : 『自信』についても説明を行った。

- 『高低』の『高』を書くとき、「これは高いビル、建物を表した字だよ」など、漢字の成り立ちを自分で説明しながら書く場面も見られた。
- 『想う』と『思う』の言葉の意味、使い方の違いについて、漢字そのものの持つ意味をもとに考えた。※正式には、『想』には『おもう』という読みは無いが、一般的に『想う』と書いて『おもう』と読ませることを付け加えて説明した。

<事例4> 平成18年度1学期

1. 単元名 漢字の形と音・意味
2. 指導期間 平成18年5月9日～5月12日
3. 指導時数 5時間

4. 単元について

本単元は、「同じ部分で同じ音」「同じ部分と意味」の二つの部分からなる。

原典教科書では、「同じ部分で同じ音」は、「化」「貨」「花」などの漢字が集められ、漢字をカッコ内にあてはめる活動が提示されている。その漢字を含む熟語だけでなく、前後の文脈も参考に、どの漢字を使えばよいかを考える問題であり、児童がこれまで学んだ多くの漢字が、共通する部分をもっているということに気づき、それを今後の漢字学習に生かしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。また、「同じ部分と意味」は、「徒」「往」など「ぎょうにんべん」という共通の部首をもった漢字を集め、「ぎょうにんべん」が「行く」や「道」に関する意味を表す漢字に使われるなど、同じ部首をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを取り上げている。

点字教科書では、例題・問題で取り上げられた漢字や部首の字形を、点線文字で示している。

5. 単元の目標

- ・漢字には、形・音・意味があることを知るとともに、音や意味を表す部分が組み合わさってできていることを理解し、漢字への興味を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1／5時

- ・教科書の例文にある「求」「球」「救」について、漢字カード（点線文字）を触りながら、ある漢字の一部分が音を表す働きをすることがあることを確認するとともに、これまで学習してきた単語家族について確認する。
- ・教科書に載っている「同じ部分で同じ音」の問題（選択肢の点線文字カード3～4枚を提示し、問題文中で使われている漢字を選択肢の中から選ぶ）に取り組む。

(2) 2／5時

- ・前時に取り組んだ問題文の中で問われた漢字以外の漢字について確認する。
【例】「一日の気温の変（ ）を調べる。」という問題文の中で、「変」について確認する。
- ・「同じ部分で同じ音」の練習問題に取り組む。

○練習問題の中で取り上げられた漢字の確認、単語家族の確認を行う。

(3) 3／5時

- ・「同じ部分で同じ音」で取り上げた漢字について復習を行う。
- ・教科書を読み、同じ部分をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを確認する。

・宿題（ぎょうにんべんのつく漢字で、知っているもの考える）の発表をする。

○「ぎょうにんべん」のつくいろいろな漢字について学習し、その中で出てきた漢字の単語家族について学習する。

(4) 4 / 5 時

・児童が知っている部首を発表し、その部首にはどのような意味があるかノートにまとめた後、どのような漢字があるか確認する。

(5) 5 / 5 時

○前時の復習と続き（どんな部首があるか）を行う。

○組み合わせゲーム（へんにつくりのカードを提示し、組み合わせで漢字を作る）を行う。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 漢字カード（点線文字）

字形のみで読みはついていないものを使用。

(3) 部首カード、つくりカード（点線文字）

(4) レーズライター

(5) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんにつくり、漢字のもつ意味、熟語などより詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(6) 練習問題

①「反」「飯」「版」「板」

(ア) (ハン) 対意見を言う。

(イ) 母は夕 (ハン) の支度で忙しい。

(ウ) 牛肉を鉄 (パン) で焼く

(エ) 今年の年賀状は (ハン) 画にしよう。

②「寺」「持」「時」

(ア) 京都には有名な (ジ) 院がたくさんある。

(イ) 1日は24 (ジ) 間ある。

(ウ) 弁当と水筒を (ジ) 参する。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

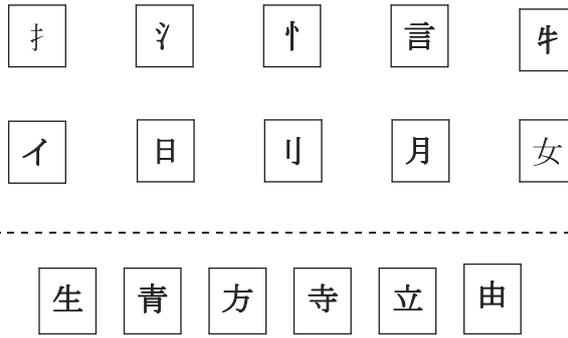
学習活動	児童の様子及び教師の支援 (C: 児童, T: 教師)
①漢字の一部分と なって音を表す働 きをする漢字があ ることを確認する とともに、単語家 族について学習す る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文を読み、提示された点線文字カード「求」「球」「救」を触って、同じ部分があることを確認した。 ・これまで学習した単語家族について振り返り確認した。教師が児童にたずねると、児童は「生」「青」などを答え、さらに、教師とのやりとりの中で関連のある漢字や形が似ている漢字を思い出そうとする様子が見られた。 <p>T: 「単語家族には、どういうものがあつたかな」 C: 「『生まれる』の『セイ』。」 T: 「うん。「生」を親字とする単語家族はたくさんあつたよね。例えば？」</p>

	<p>C : 『生 (セイ)』の上に『日 (ひ)』をつけて、『星 (ほし)』とか。」 C : 「生まれるってこういう字だったよね。」と言いながら、机の上に指で『生』を書く。 C : 「ここ(一番上の横線)を突き通さない字もあったよね。なんだっけ。」 T : 「一番下の横線を抜いて、上を突き通さない字ならあるよ。」 C : 「うん、そんな字がたしかあったような・・・」 T : 「午前、午後の『午 (ご)』だね。」 C : 「ああ、そうだった」 T : 『午』の成り立ちを説明して、『生』の話題に戻る。 ・漢字学習プログラム教材を使って『生』の単語家族の確認をした。</p>
<p>②教科書に載っている「同じ部分で同じ音」の問題に取り組むとともに、問題文中に使われた漢字及びその漢字の単語家族について学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「化」「花」「貨」 ・「晴」「精」「清」「静」 ・「則」「側」「測」 <p>③教科書を読み、同じ部分をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文、点線文字カード(読みはなし)を提示し、問題文中の空欄に当てはまる漢字のカードを選ぶようにした。 ・児童は、ほぼ正しくカードを選ぶことができ、分かるものは選んだ理由も自ら進んで答えていた。 <p>T : 『晴』『精』『清』『静』の漢字カード、問題文を提示 C : 『晴』のカードを選んで、「日に青。これは、晴れっていう字だから、晴天だ。」 T : 「そう、晴れだね。」 C : 問題文『セイ潔な・・・』を読み、「セイケツって、きれいっていう意味だから、『清い』だ」と言い、『清』のカードを選んだ。 T : 「掃除のことを清掃っていうでしょ。清掃のセイもこれだよ。」 C : 「そうか。きれいにすることだもんね。」 C : 『精』と『静』で迷った T : 『精』と『静』の漢字の成り立ち、漢字そのものがどのような意味を持つか、どんな熟語に使われているかなど、関連づけながら説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に教科書を読んで内容を確認し、教師がぎょうにんべんの説明(『行く』『道』を表すものに使われる)を行った。 <p>T : 「ぎょうにんべんってどんな形かわかる？」 C : 「知ってる」と言い、自分からレーズライターで書き始める。 C : はじめに『にんべん』を書くが、すぐに「あ、これ、にんべんだった」と気づき書き直す。 C : 『行く』って、この字(行を書く)だよ T : 「そう、よく覚えているね。」 C : 「成り立ちも覚えている。たしかこんな図が書いてあった。」と言いながら指で書き、成り立ちの説明をしてくれた。 C : 「これって、音読みは『コウ』だったよね。旅行の『コウ』。『ギョウ』って読み方もあったかな。」 T : 「一行、二行のギョウ。学校行事のギョウとか、あったでしょ。」 C : 「あー、行列のギョウ」 T : 改めて『行』の成り立ち、意味、どんな熟語に使われるか説明を行った。</p>

<p>④「ぎょうにんべん」のつくいろいろな漢字について学習し、その中で出てきた漢字の単語家族について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(往) (復) ・(徒) 歩 ・(従) う ・(待) ち合わせ ・三十分 (後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文の中で取り上げられている漢字について、一つずつ考えていくようにした。児童は、これまで学習したことを思い出したり、自分の知っていることと関連づけて考えたり、予想したりして楽しんで取り組んだ。 T : 「オウフク (往復) ってどんな意味かな」 C : 「行ったり来たりすること」 T : 「そうだね。だから、オウもフクにもぎょうにんべんがつく。箱根駅伝で往路、復路って言うでしょ。」 C : 「知ってる。帰りが復路だよね。」 C : 「往復のオウには、王様のオウがつくのかな」と言って漢字学習プログラム教材を触って確認する。 C : 「あ、『主な』っていう字だ。(周辺の字を触りながら) やっぱり親字は王様の王だ。」 C : 「往復のフクって、『福は内』のフクかな」 T : 「『福は内』のフクって神様が関係する言葉だよね。」 C : 「そうか。たしか・・・しめすへんだったね。じゃあ、ちがうね。」 C : 教材で『福』『復』の字を触って確認 T : 『復』、『福』の成り立ちや意味を説明 T : 「この『復』のぎょうにんべんが、にくづきだったらどうなるかな」 C : 「読み方はたぶん『フク』だよ。体に関係があるから・・・、腹痛のフクだ。『はら』だ。」 ・教科書に出てきた漢字を漢字学習プログラムで確認する際、児童は自分からその周りにある漢字(単語家族や親字)を触り、へんとの関連を考えたり、訓読みを触ってどんな熟語に使われるか考えたりする様子が見られた。また、「後」の学習の際、「『前』ってどんな字だったかな。」と関連する字をたずねる様子も見られた。
<p>⑤知っている部首を発表し、その部首にはどのような意味があるかノートにまとめ、どのような漢字があるか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に知っている部首をたずねると、りっしんべん、てへん、にんべん、かねへん、ごんべん、りっとう、にくづき、うかんむりなどをあげ、自らその部首のもつ意味を答えた。教師が補足しながらノートにまとめるようにした。 ・発表した部首を持つ漢字にどのようなものがあるかたずねると、意味と読みから考えて答えることができた。 T : 「りっしんべんがつく漢字で知っているものある？」 C : 「りっしんべんに『生む』って書く漢字があった」 T : 「りっしんべんに『生む』で、何て言う漢字？」 C : 「何だったかな・・・(考える)」 T : 「『生む』の漢字の音読みは？」 C : 「セイ」 T : 「りっしんべんはどういう意味を持つものだった？」 C : 「心に関係する」 T : 「心や気持ちに関係していて、読みが『セイ』。どんな熟語があるのかな」

	<p>C : 「性格のセイだ」 T : 「うん。他にも、性質や個性のセイ。『ショウ』とも読むよ。根性とか性分とか」 ・てへん等は、「手ですることに関係するもの」という意味から『書く』と答える場面もあった。</p>								
<p>⑥組み合わせゲームを行う。</p>	<p>・へんとつくりのカードを提示し、組み合わせで正しい漢字を作る、組み合わせゲームを行った。</p> <p>《ゲーム1》</p> <p>・てへん、にくづき、りっとう、りっしんべんの部首カードと、「寺」のカードを提示し、組み合わせを選んで正しい漢字を作った。</p> <p>C : てへんの部首カードを選ぶ T : 「これは（持）は、何ていう漢字？」 C : 「えっと・・・（考える）」 T : 「右側（寺）の音読みは何だった？」 C : 「ジ」 T : 「音読みがジで、手ですることに関係するんだよね」 C : 「『持参する』のジだ。だから、『持つ』。」</p> <div data-bbox="587 954 1291 1249" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">《ゲーム1》</p> <table style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">扌</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">月</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">リ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">亻</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">寺</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↑</p> </div> <p>《ゲーム2》</p> <p>8枚の部首カードと「生」「青」「寺」「方」「由」「立」のカードを提示し、組み合わせを選んで正しい漢字を作ってもらった。</p> <p>・「生」のカードと部首カードを選んで、「姓」「性」を作ることができたので、漢字の意味やどんな熟語に使われるかなどをたずねた。</p> <p>C : 『姓』を作る T : 「読みは？」 C : 「セイ」 T : 「どんな熟語に使われる？」 C : 「女性のセイ」 T : 「それじゃあ、男の人は？男性のセイは？」 C : 「ああ、そうか（考える）。」 C : 「あ！名前に使うときのセイだ」 T : 「そう。姓名のセイだね」</p>	扌	月	リ	亻				寺
扌	月	リ	亻						
			寺						

《ゲーム2》



- ・音読みと部首から作った漢字の訓読みを考えることができた。
C : 「こんな字があったような・・・」と言って、『油』を作る。
T : 「右側は何て読むの？」
C : 「ユ。由〇〇ちゃん（友達の名前）の『由』だよ」
T : 「そうね。じゃあ、左側は？」
C : 「さんずい。水とかに関係する」
T : 「液体に関係するものだね」
C : 「灯油のユ」
T : 「じゃあ、訓読みは？」
C : 「うーん（考える）」
T : 「灯油のほかには？」
C : 「石油」
C : 「あ、あぶらだ」
- ・「方」「立」など、つくりの漢字や組み合わせ（訪、位）は分かるが、作った漢字の意味やどんな熟語に使われるか分からなかったので、成り立ちも含めて説明をした。

Ⅲ. 考察

1. 指導評価及び検査等の比較

(1) 基本的漢字実態把握テストによる指導評価

指導開始時（平成17年9月）に行った基本的漢字実態把握テストを、平成18年4月、平成18年9月にも実施した。第2，3回のテストでは、漢字の読みだけでなく、成り立ち、どのような熟語に使われるかという項目を加えた。

○第1回：平成17年9月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	44	—	—
第3段階	71	10	—	—
合計	184	54	—	—

○第2回：平成18年4月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	62	35	55
第3段階	71	21	9	18
合計	184	83	44	73

○第3回：平成18年9月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	81	58	74
第3段階	71	22	11	22
合計	184	103	69	96

これらの結果を比較すると、各項目とも、指導を重ねるごとに習得漢字数が高くなっている。読みについては、第1回は、音読みか訓読みいずれかの回答が多かったが、第2回、第3回は、音読みと訓読みの両方を回答することが多くなった。

第2回は、読みが分かった83字のうち64字について、音読みと訓読みの両方を答えることができ、第3回では、103字のうち93字について両方を答えることができた。特に、第3回のテストでは、「下」や「生」など、音読みと訓読みが複数ある漢字の場合、その漢字が使われている熟語や漢字そのものの意味を自分で考えて、複数の読みを答えることができるようになった。

各漢字が、どのような熟語に使われるかという問いに対しては、第2回では、1～2語の熟語を答えたのに対して、第3回では、3～5語の回答がみられた。

(2) 読書力診断検査（2回目：平成18年9月22日）

指導実施前（平成17年9月22日実施）に行った「読書力診断検査」を指導1年後である平成18年9月22日に実施し、その結果を比較した。

1回目と同様に、第1部は漢字の読みに関するものであるため、第2部～第4部のみを実施。検査時間は、通常の1.5倍の時間で行った。

2回目の結果は以下の通りである。

項目	検査日	1回目 (17.9.22.)	2回目 (18.9.22)
第2部 語い力		4	4
第3部 文法力		3	4
第4部 読解・鑑賞力		4	4
第1部をのぞく総合評価		3	4

1回目、2回目を比較すると、文法力の評価レベルが上がっている。表には示さなかったが、前回と同様の「4」の評価である語彙力や読解・鑑賞力においても、前回より回答している問題数が多く、正解も増加している。第1部をのぞく総合評価は「4」に上がり、力が付いてきていることが分かる。

(3) 熊本県学力テスト（平成18年3月実施）

第5学年の学年末に、熊本県が実施した学力テストを点訳し、通常の1.5倍の試験時間で実施した。漢字の書き、読みの問題については代替問題（漢字を含む言葉の意味を問う問題、複数の選択肢の中から問題文中の熟語と同じ漢字を使っているものを選択する問題）を作成した。代替不可能な問題については削除したため、97点満点として対応した。このテストは、今回初めて受けたため個人内での比較はできないが、熊本県内の5年生の平均とともに結果を下記に示す。

熊本県学力テスト結果

領域	児童の得点（得点率）	熊本県内5年生の平均
話すこと・聞くこと	22/25（88.0%）	14.6/25（58.3%）
言語事項	13/17（76.5%）	12.4/20（62.4%）
読むこと	23/30（76.7%）	19.7/30（65.8%）
書くこと	22/25（88.0%）	18.0/25（72.1%）
合計	80/97（82.3%）	64.7/100（64.65%）

この結果を見ると、熊本県内の5年生の平均と比べて、どの領域も平均以上となっている。

指導開始前は、単元末テストや学期末テストなどで、児童は、言葉の意味を問う問題や文章をまとめて書くような記述式の問題を苦手としていたが、このテストでは、漢字に関する問題（代替問題）だけでなく、読み取りや要約して文章を書く問題においても、漢字を意識し、言葉の意味をきちんと捉えて文章を書くことができていた。

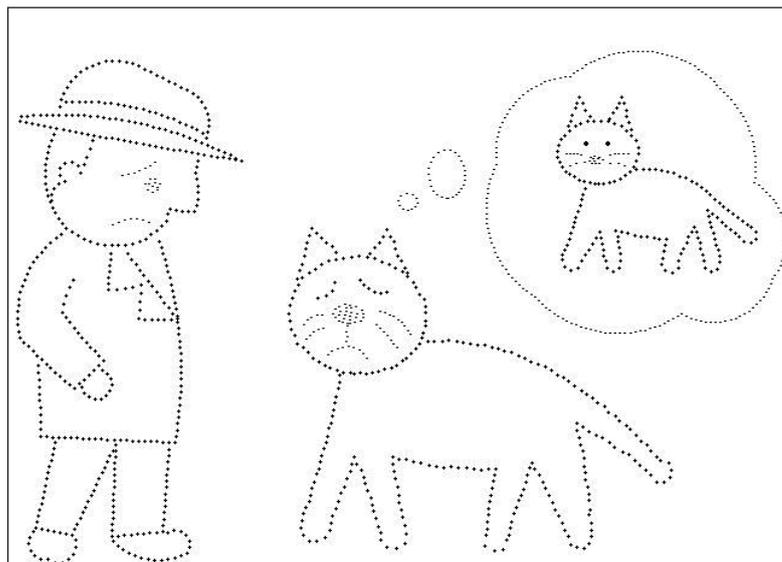
2. 教材及び指導方法について

各単元とも、まず文章作りやゲーム・クイズなど教科書の内容に沿った学習を行い、その後、取り上げられた漢字や基本漢字について指導するという流れで行った。教科書の内容に沿った学習の文章作りやゲームでは、主に立体コピーの絵や点図、漢字カード（点図）、などを使い、後半の漢字の学習では、主に漢字学習プログラム教材を使用した。

(1) 漢字の広場の図

単元「漢字の広場」は、絵と提示された言葉を手がかりにして文章や物語を作り、その中で既習の漢字を文章の中で使い、書き慣れていくことをねらいとしているが、点字教科書では、言葉のみの提示であるため、それだけでイメージを膨らませて短文や物語を作ることは非常に困難であった。そこで、教科書に提示された絵を触って分かりやすいように加工して立体コピーや点図であらわし、導入時に図の説明を行うようにした。図の説明にあたっては、挿絵の登場人物の姿勢や動作を児童と一緒に挙げるなど、イメージしやすいように配慮した。児童は、図を触って予想したり自分のイメージを表現しながら、意欲的に文章や物語を作ることができた。

立体コピーや点図があったことと図の説明を一緒に行ったことで、知らなかった熟語について、イメージからその意味を考えたり推測したりすることができた。言葉の意味を自分なりに考える場面をつくったことによって、児童は漢字のもつ意味を理解しやすくなった。「漢字の広場」の学習では、図をイメージするために適切な触察教材を準備しておくことが学習を進める上で重要であると感じた。



【漢字の広場に使った図】

(2) 漢字カード、部首カード（点線文字）を使ったクイズ・ゲーム

事例2，事例4に示したように、単元の内容に応じてゲームを通して学習するよう工夫した。例えば、事例2のようなゲームでは、カードの組み合わせ方（意味）と矢印の向き（読み）を同時に考えていかなければならないが、字形を知らない漢字や音読みが複数ある漢字が含まれていると、さらに複雑になり、情報を整理し総合的に考えていく力が必要となる。ゲームを通しての学習は、楽しみながら主体的に取り組めるだけでなく、字形や読みなど自分の持つ漢字の知識（情報）を整理することにも効果的であった。

(3) 漢字学習プログラム教材

漢字学習プログラム教材は、第7～10段階で、親字と単語家族がまとめている。教科書で取り上げられた漢字の字形や読みについて本教材を使って確認する際、親字とほかの単語家族についても確認するようにしていくと、児童自身も学習で使用したとき、必ずその漢字の周辺にある漢字も自分から触って確認するようになった。学習が進んで、単語家族のまとまりの左上に親字があることなどが分かってくると、「これが親になるんだ」と言いながら親字を触ったり、「こっちには『しんによう』がついている」などと自分からほかの単語家族を触ったりする様子が見られた。特に、単語家族については、部首と読みから使われている熟語を考えて表現するなど、教師の支援がなくても自分で関連づけて考えていくことができるようになった。

3. 漢字の指導について

単元「漢字の広場」は、本来、前学年までに習った漢字の復習として位置づけられたものであり、それ以外の単元も、漢字・言葉についての学習を通して、前学年までの既習漢字と当該学年の新出漢字を学習するものである。しかし、本指導では、基本漢字と基本漢字でないものに分けて、基本漢字については、字形、成り立ち、読み（音・訓）、漢字のもつ意味、どのような熟語に使われるか、単語家族などを指導するようにした。特に基本漢字の字形については、点線文字で字形を確認するだけでなく実際に書いて確認するようにした。基本漢字でないものについては、漢字の字形を確認する際、親となる字に重点を置いて指導するようにした。

(1) 漢字の字形・部首

点線文字を触って字形を確認する活動は、学習した漢字のほぼ全ての漢字について行ったが、基本漢字については、触って確認するだけでなくレーザーライターで書いて字形をきちんと捉えているか確認するようにした。字形を覚えることにはこだわらず、あくまでも漢字の成り立ちを知り、そこから漢字の意味や読みをを考えるための手だてとして字形の指導を行ったが、基本漢字は、最初に出てきたときに成り立ちの図に触って確認していったので、そのイメージから字形もよく覚えた。

単語家族の学習を始めてからは、知らない漢字でも字形を触って基本漢字をもとにまず音読みを考え、それから部首を手がかりにして漢字の意味や訓読みを推測しようとするようになった。

【例】

C：『洗』という字を触って「あ、『先（サキ）』がついている。」

T：「どんな熟語に使われたか覚えている？」

C：「これは確か『先生』の『セン』だから、これは音読みはたぶん『セン』だよ。」

T：「部首は？」

C：「さんずい」

T：「さんずいって何に関係あるのかな」

C：「水に関係あるから・・・、もしかして『洗濯する』の『セン』？」

T：「そうだよね。じゃあ、訓読みは？」

C：「洗濯・・・」

T：「洗剤の『セン』とか、洗顔の『セン』とか」

C：「あ、『あらう』かな」

(2) 漢字の読み

漢字の読みに関する指導は、教師が児童に教えるだけでなく、教師と児童とのやりとりの中で児童自身が考えたり気づいたりできるように心がけた。

訓読みが分かっているものは、訓読みから漢字の持つ意味や同義の熟語を考えて、そこから音読みを考えるようにしたり、字形と音読みが分かっているものは、部首の持つ意味と音から熟語や訓読みを考えるようにしたりするようにした。また、同音異義語については、熟語の意味から構成する漢字やその訓読み、他にどのような熟語に使われているかなどを考えるように指導した。

児童は、はじめは同音の漢字について、漢字のもつ意味などはあまり考えず、音のみに留意し知っている同音の漢字を答えることが多かった。また、「訓読みが漢字の意味を表す」と理解しているながらも、指導開始時は、音読みと訓読みを間違える場面がときどき見られたり、部首や親字など情報が多くなると、訓読みから漢字の意味を考えることを忘れてしまったりする様子が見られた。指導を重ねていくと、このような場面が少なくなり、一つの情報だけに固執せず、様々な情報を合わせて総合的に考えることができるようになった。

(3) 漢字の成り立ち

漢字学習プログラム教材は、第2～3段階が基本漢字で、成り立ちの図が点図で示されている。基本漢字を学習する際は、この図を触って学習するようにした。児童は、図を触りながら「これがこの部分だね」など、図を自分なりに理解して表現したり、手で形を作りながら「へびがこうなっているんだね」などと、自分の体を使って表現していた。時間をかけて児童自身が触りながら考えたり推測したりした漢字は、字形だけでなく成り立ちや意味についてもとてもよく覚え、後に出てきたとき、「成り立ちの図にこういうのがあったよね」と図を思い出し、そこから漢字の意味を考

える場面が見られた。また、成り立ちから漢字のもつ意味を幅広く考え、いろいろな熟語を考えることにもつながった。

4. まとめ

(1) 漢字の学習について

本指導では、点線文字や点図を触ったり、レーザーライターで書いたり、ゲームをしたりするなど、児童が操作をする場面を大切にするとともに、教師とのやりとりの中で、児童自身が考えて発見したり気づいたりする場面を大切にしているようにした。点図を触ったりレーザーライターで書いたりする活動が好きな本児童は、漢字の単元を楽しみにして、意欲的に学習に取り組むことができた。

各単元とも、「前半は文章づくりやゲームを行い、後半はその中で取り上げられた漢字について学習する」という流れで行い、漢字そのものについての学習も、漢字学習プログラム教材を継続して使用しながら、字形、成り立ち、部首、読み、どのような熟語に使われるかということに関連づけて指導する方法で、同じように進めた。指導開始時は、教師の説明を聞いたり提示された教材を確認するのみだった児童が、指導を進める中で、自分から教師にたずねたり、「訓読みが〇〇でこんな意味があるから、△△という熟語に使われている漢字では」と考えたり、提示された漢字の単語家族を自ら触って、その漢字についても進んで考えたりするようになった。同じ教材を使用し同じ流れで学習を進めたことで、児童自身、学習の見通しを持つとともに教材の使い方や学習の仕方を知り、自分から学んだり関連づけて考えたりする力がついてきたように思う。

点字使用の児童に対して漢字の学習を行うことの意義を以下のようにまとめておく。

- ① ことばそのものの意味を知ることに加えて、単語を構成する漢字の一つ一つの理解ができるので、ことばの意味理解がさらにはっきりする。
- ② 漢字の訓読みを理解することで、特に漢語の熟語の理解につながる。
- ③ パソコンでの学習に比べて漢字1文字1文字について多様な認識できる。
- ④ 形の確認等で漢字家族を学ぶことは、漢字同士のつながりを理解することができる。関連づけて理解することは学習を助ける。
- ⑤ 日本語はひらがなカタカナという表音文字と表意文字（漢字）でできているのだから漢字についても当然学ぶべきである。学ぶ権利であるといえる。
- ⑥ 継続して学ぶことで自ら学ぶ姿勢ができる。そのためには、自ら学べる本教材が有効であった。

(2) 他の場面での広がりについて

また、漢字の学習以外の場面でも、漢字を意識している様子が見られるようになった。特に、同音異義語の場合、漢字の学習を始めてからは、「これは、どんな漢字を使うんですか？」とたずねるようになり、学習が進むにつれ、「訓読みは〇〇？」や「もしかして、こういう漢字？」などと、指で机や空に書いたり、文脈から意味を考え、そこから漢字を考えたりする場面が多く見られるようになった。

今年度は社会科で歴史の学習を行っているが、歴史の学習では熟語が非常に多く、漢字からその内容を推測しやすいものが多い。本指導を行うようになり、社会や算数など他教科でも、どのような漢字を使っている言葉か、漢字学習プログラムの教材を使ったりレーザーライターで書いたりしながら説明を行うようにした。例えば、「廃藩置県」や「文明開化」「治外法権」などは、漢字の説明を聞くことで、言葉の意味がより理解できたようである。

言葉や文章を、漢字を意識しながら読んでいく習慣がついてきたことで、言葉の意味をよく考え

るようになり、国語での内容の読み取りをはじめ、他教科においても文章を理解する力がついたように思われる。また、文を作ったり口頭で発表したりする際においても、自分の思いを表現するための言葉をよく吟味して使うようになった。